

平成 22 年 8 月 4 日

自然体験学校 2010 の開催

自然体験学校開催のお知らせ

本年 8 月 8 日（日）～10 日（火）、福島大学人間発達文化学類主催（福島市教委・二本松市教委・伊達市教委後援）の「自然体験学校 2010」を開催する。

教員養成カリキュラムの「自然体験実習」の受講生である大学 1 年生が、授業の一環として企画・運営するもので、参加者の子ども 2 人に対し 1 人以上の割合で学生がつき、密なコミュニケーションのなかで活動できるので、毎年、好評をいただいている。

福島市およびその近郊の小学 5 年生～中学 3 年生までを対象に参加者を募集する。募集要項は 6 月上旬に各学校を通じて配布される。また、ウェブでもダウンロード可。

（<http://www.ipc.fukushima-u.ac.jp/~p203/ns2010.html>）なお、募集要項は別紙参照。

自然体験実習について

「自然体験学校」は、福島大学人間発達文化学類の授業である「自然体験実習」の受講者（60 名～80 名、本年度は 70 名が受講）が、教員になるための学びの一環として、学生たち自身で作り上げる企画である。また、2 年生（毎年約 20 名）も、1 年時の経験を生かし、別の授業の一環としてサポートする。今年で第 14 回目を迎え、受講者はのべ 1000 人を超えた。第 1 回は、1997（平成 9）年、文部省（当時）の「フレンドシップ事業」として始まり、その後、同事業終了後も、福島大学教育学部の授業として開講、2005（平成 17）年の第 9 回からは、人間発達文化学類への再編に伴い、「実践実習科目」として開講するに至り、今年に至っている。

人間発達文化学類は、教員免許について、旧教育学部のような免許必修制とはせず、選択制に転換した。しかし、私たちは、選択制の下でこそ、教育学部に勝るとも劣らない教員を輩出できると考えており、「質の高い教員養成」に力を入れている。そのためのひとつの科目である「自然体験実習」は、教員養成プログラムの入口であり、学生の企画力や実践力、子ども理解の基礎づくりを行っている。準備過程では、週 1 回全体で集まるだけでなく、グループごとに毎日放課後に集まり、特に最後の 1 ヶ月くらいは夜遅くまで、また土日にも準備に費やしている。

教師への志向が強い学生に、大学での学びの入口で子どもたちと出会う機会を与え、自らの教師としての資質について再確認する貴重な場となっている。ここでの経験をきっかけに、意欲を持って学び続け、教師として巣立っていった学生が数多く出ている。